

アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計

1 対象（実施を想定する学校・児童生徒の概略）

肢体不自由特別支援学校 小学部3、5、6年（自立活動を主とする教育課程） 5人

5人中2人が経管栄養で医療的ケアを必要とする。体調によっては吸引があり授業を中断する児童もいる。5人の児童は絵本の読み聞かせに注目したり、「一本橋こちょこちょ」などの簡単な手遊びで期待して笑顔を見せたりする。好きな活動をする中で笑顔を見せたり声や身体の動きで楽しい気持ちを表したりすることができる。また、やりたい気持ちを声に出して表現する力も芽生え始めている。

2 教材のねらい（単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など）

本学習集団では、年間を通して感覚運動遊びを行い「簡単な見通しで遊びに期待する姿」や「楽しい気持ちや遊びたい気持ち（乗りたい、もう1回やりたい）などを声や表情、身体の動きで表す力」を育てていきたい。

本単元は、年間4回ある集団学習（自立活動「あそび」）のうちの2単元目である。前回の「シーソー遊び」では、短い歌に合わせて揺れることで活動に見通しをもち、乗りたい気持ちやもう一回揺らしてほしい気持ちを声や身体の動きで伝えようとする姿が見られ始めた。今回は「バルーン」と「ウォーターベッドスライダー」の揺れ遊びを行う。軽快なリズムの歌に合わせて揺れるバルーン活動では弾む揺れの楽しさを感じたり、合図の後に傾く遊びを取り入れたりしながら、期待しながら遊べるようにする。スライダーでは、ウォーターベットに寝転びゆったりとした揺れや水の音を感じられるようにする。いずれの活動も歌に合わせて揺れることで、始まりと終わりの見通しがもてるようにする。同じ流れで活動を繰り返す中で活動に見通しをもち、感じたことを表情や声、手足の動きでよりたくさん表すことを期待するとともに、教師と一緒に関わりながら遊ぶことで、楽しい気持ちや乗りたい気持ち、もう1回揺らしてほしい気持ちなどを身近な人に表現する力を育てていきたい。

3 授業の展開（本時：20/23時間）




		時間配分
解決したい課題や問い	(1) 手遊び (2) イルカに乗ろう (3) 波で揺れよう	導入 (3分)
授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	①この歌知ってるよ。こうやって乗って遊ぶんだよね。 ②バルーンに乗って遊びたいな。ひんやりベッドに乗りたいな。もう一回揺らしてほしいな。どうやって伝えたらいいかな。声を出してみよう。手を伸ばしてみよう。 ③これは何かな。見てみよう。聞いてみよう。触ってみよう。	

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開
手遊び（さかながはねた）	イルカに乗ろう（バルーン）	波で揺れよう（ウォーターベッドスライダー）	活動A (10分)
想定される活動	想定される活動	想定される活動	活動B (20分)
・教師と一緒に（又は自分で）頭、耳、腹、足、脇の下を触ろう。	・バルーンに乗りたいな。声を出してアピールしよう。 ・身体が弾んで楽しいな。 ・身体が傾く危ないよ。 ・元に戻ってほっとした。	・水の音がするぞ。 ・ひんやりして気持ちいいな。 ・もう一回揺らしてほしいな。	活動C (10分)
教師の押さえ	教師の押さえ	教師の押さえ	
・教師と向かい合って行う。児童が予測したり模倣したりできるよう毎回同じ流れでゆっくり行う。最後は脇の下をくすぐり、関わりがもてるようにする。	・「いるかはざんぶらこ」の歌に合わせてリズムよく揺れる。歌が終わったらタンブリンで合図を鳴らし「波が来たぞ、おとととと。」の言葉に合わせて体を傾ける。	・「うみ」の歌に合わせて上下、左右にゆったり揺れる。ウォーターベッドを使い、冷たさを感じたり、水の音を聞いたりできるようにする。	

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）	
<p><手遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部位の名称を聞いた後に教師と一緒にその部位に触れたり、教師をまねして自分で触ったりする。 <p><イルカに乗ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の「乗りたい人。」の言葉掛けに、声や身体の動きで応じる。 ・タンブリンの合図で、次に身体が傾くことを予想し、期待する表情を見せる。「おとととと」の動きを介して、傾く変化や楽しさ、元に戻った安心感を教師と一緒に共有する。（動きを介した気持ちの共有） <p><波で揺れよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きが止まったときに、声を出したり手を動かしたりして、もう一回揺らしてほしい気持ちを表出する。 	

学習の成果	各活動において、目の前の教材に興味をもち、活動に期待しながら教師と一緒に遊ぶことができる。楽しかった、またやりたい、という気持ちをもつことができる。	まとめ (2分)
授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	①活動内容が分かり、見通しをもって安心して活動することができる。 ②楽しい気持ち、乗りたい気持ち、もっと揺らしてほしい気持ちなどを表情や声や身体の動きなどで表すことができる。 ③活動に興味をもち、集中して見たり聞いたり、教師と一緒に活動したりすることができる。	

アクティブ・ラーニングによる授業実践記録

解決したい課題や問い	
<p>バルーンを提示した場面</p> 	<p>○解決したい課題を提示した場面について</p> <p>各活動のテーマソングと共に、バルーンやウォーターベッドスライダーを提示すると、教材に視線を向けたり、手を伸ばしたりして興味を示した。期待して笑顔を見せる児童もいた。</p> <p>★課題についての教師の評価</p> <p>教材を近くに提示するだけでなく、教材の音を鳴らす、手に触れて確認する、教師が遊び方の手本を示すことも気持ちを引きつけるのに有効だった。</p>
考えるための材料	
<p>タンブリンの合図の後、身体が傾く場面</p> 	<p>○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について</p> <p>3週間目あたりからタンブリンの合図が聞こえると、次の傾く活動を期待して笑顔を見せるようになった。また、自分から身体を傾けて遊ぶ児童も出てきた。</p> <p>★材料についての教師の評価</p> <p>「曲に合わせて揺れる→タンブリンの合図→身体が傾く」の展開は、3名の児童が理解できた。体が傾く活動を3回連続して繰り返したことで徐々に期待反応が見られるようになった。</p>
対話と思考	
<p>友達の活動を見ている様子</p>  <p>楽しそう。私もやってみたい！</p>	<p>○対話や思考した場面の様子について</p> <p>活動を繰り返す中で、乗りたい気持ちを声に出してアピールすることが増えていった。また、教師が「乗りたい人。」と問い掛けたときに、声で返事をしたり、微笑んだりして応答する姿も見られるようになった。</p> <p>★対話や思考の場面についての教師の評価</p> <p>友達の活動を近くで見ることで遊びたい気持ちを高めることができた。また、少しでも声を出したらその表出を受け止め、活動ができるようにした。フィードバックを丁寧に行ってきたことが、表出の増加につながっていったように思われる。</p>
学習の成果	
<p>ウォーターベッドスライダーで繰り返し遊んでいる場面</p> 	<p>○学習の成果を実感した場面の様子について</p> <p>単元後半は、各活動に見通しをもち、テーマソングが聞こえてきただけで笑顔になったり、確実に声を出して乗りたい気持ちをアピールしたりするようになった。教師と一緒に何度も活動することで満足した表情を見せた。</p> <p>★学習の成果について教師の評価</p> <p>教師と一緒に楽しい気持ちを共有しながら何度も繰り返し活動したことで、より満足感を高めることができたように思われる。</p>
<p>アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って(もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するか)</p>	
<p>○成果と課題 児童が理解できるシンプルな活動の設定、見通しがもてる音楽や言葉掛けの意図的な設定、また、関わり手が児童の引き出した力を明確に抱き、フィードバックしていくことの重要性を実感することができた。バルーンでは、座位姿勢で乗るようにした児童がいたが、床に膝を付いてバルーンにもたれるようにすると、より姿勢が安定し、自分でもバルーンを揺らして遊ぶことができたかもしれない。</p>	